



北海道公立大学法人 札幌医科大学

長期ビジョン

～中期計画の策定に向けて～

SAPPORO
MEDICAL
UNIVERSITY

VISION

目 次 INDEX

1. 目的・背景等	3
2. 長期ビジョンの位置付け	5
3. 長期ビジョンの期間	6
4. 長期ビジョン	
(1) 教 育	7
(2) 研 究	8
(3) 診 療 (附属病院)	9
(4) 社会連携・地域連携	10
(5) 法人運営	11
長期ビジョン 概念図	12





1. 目的・背景等

▶ 本学の歩み

本学は、昭和 25 年の建学以来、多くの卒業生を輩出し、医療・保健の発展はもとより、地域への医師派遣等を通じて、北海道の地域医療に貢献するなど、道内唯一の公立医療系総合大学として、令和 2 年に開学 70 周年を迎えた。

平成 19 年度には、地方独立行政法人への移行によって、機動的・自主的な運営が可能となり、これまで第 1 期から第 3 期までの中期目標・中期計画に基づき、法人運営を行ってきた。

開学 70 周年を機に、さらに 100 周年に向けて、建学の精神に基づき、医学・保健医療学のグローバルな視点からの叡智を結集し、教育、研究、臨床等のさらなる充実に向け取り組んでいる。

▶ 社会環境の変化

地方独立行政法人化後、15 年が経過し、大学を取り巻く環境も大きく変化している。AI や IoT など科学技術の進歩に伴い、Society5.0 や DX など人々の社会生活はめまぐるしく変化する一方、社会的格差の顕在化や新型コロナウイルス感染症の流行、さらには脱炭素社会の実現など、SDGs にも掲げられるような数多くの課題に直面している。

① 少子高齢化

中でも、特に、少子高齢化の進行に伴う 18 歳人口の減少は、大学運営の根幹に大きな影響を及ぼすことになる。18 歳人口は、平成 2 年の 205 万人をピークに、令和 22 年には約 88 万人まで減少することが予想されており、国公私立を問わず、その存続をかけた大学間競争がますます激化する中で、より一層の大学の活性化が求められる。また、本学の理念達成に向けて、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に即した人材の確保が、今後も維持できるか危惧される。

さらに、人口減少や過疎化は、将来的な医療需要に大きな影響を及ぼすとともに、道内の医師をはじめとする医療職や診療科の地域偏在がより顕在化することが懸念される。

また、総人口に占める 65 歳以上の割合は、令和元年には約 28% に達し、約 3 人に 1 人が高齢者となっているが、日本の多くの遠隔地では 40% 以上になっている。このため、高齢者の多重疾患など特有の病態に対応できる医療人の養成が急務となっている。

② 国公立大学の状況

令和2年12月に策定された「国立大学法人の戦略的な経営実現に向けて～社会変革を駆動する真の経営体へ～」により、国立大学は大きな転換点を迎えた。

国立大学は、国との自立的契約関係に基づき、国が示した大枠の方針（国立大学法人中期目標大綱）を踏まえ、自身のミッションとして位置付けるものについて、自ら選択し、それを達成するための方針を自らの責任において「第4期中期計画（R4～R9）」として策定し、自らが目指す方向性（ビジョン）について、社会に対して明確に提示していくなど、各大学の特性や自主性を活かした運営が求められている。

公立大学においても、国立大学の制度に準じた制度が取り入れられる可能性もあり、今後の動きを注視するとともに、本学のミッションや将来像等について改めて確認する必要がある、そのためにも、IR機能の強化を図っていくことが急務となっている。

また、道内においては、帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学が、令和4年4月に「北海道国立大学機構」として経営統合するなど、少子化時代を見据えた経営基盤強化の取組がなされている。

▶ その他、本学の今後の状況と課題

第3期中期計画期間である令和4年度から6年度の3年間で、本学の教授職のうち約20名が定年退職し、さらに3年間を加え令和9年度までの6年間とした場合、約30名が定年退職を迎える。この状況は、大学の教育・研究・診療に影響を与えるものであり、大学の将来像や、講座等の長期的なあり方・方向性なども視野に入れ、新たな教授職の選考にあたる必要がある。

また、長期的な財務基盤を確立するためには、病院運営に加え、外部資金の獲得が重要であり、国のプロジェクトなどを積極的に確保していくなど、多様な財源の検討が求められる。

加えて、附属病院では、新型コロナウイルスの感染者の受入、特に重症患者の治療のため、一部病床を休床して対応するとともに、感染制御や救急部門を中心に、行政機関や地域の医療機関等の支援を行うなど、地域社会と医療・保健が困難な局面にある中、医療従事者の努力によって、その使命を果たし貢献してきている。

今後、コロナ禍が収束し社会活動が通常に戻った際の、患者の受診行動を注視していくことに加え、コロナ禍でさらに顕著となった診療の質的变化（診療単価：増、在院日数：減、患者数：減）を踏まえて、病棟改修工事終了後の病院運営について長期的な見通しを立て、あり方を議論していく必要がある。

▶ 長期ビジョンの必要性

社会環境の変化を見据え、長期的な課題に対応していくため、また、学生の教育、人材育成の視点からは、卒業後のキャリアまで含めた長期間の単位で考えるべき部分もあり、中期計画期間となる6年間を超えた長期的な視点に立った検討が必要である。

このため、「本学の将来像」、「目指すべき姿」として長期ビジョンを策定し、大学の進むべき方向性を示すとともに、学内の教職員がその目標を共有し、将来に向かって歩みを進めていくこととする。

長期ビジョンは、本学の中心的な活動範囲や中期目標・計画を踏まえて、「教育」、「研究」、「診療（附属病院）」、「社会連携・地域連携」、「法人運営」の5分野で構成する。

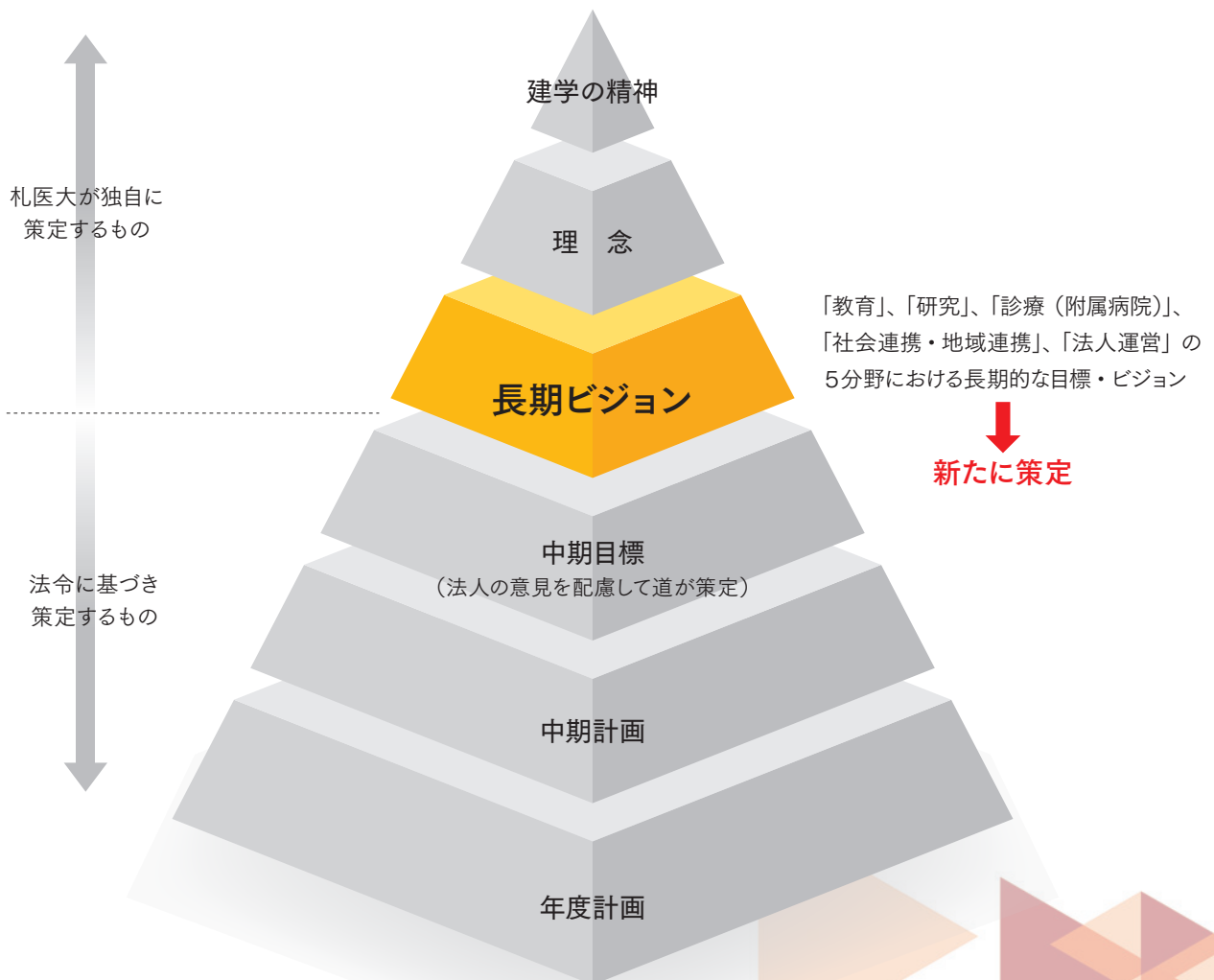




2. 長期ビジョンの位置付け

- 長期ビジョンは、「建学の精神」や「理念」のもと、中期目標や中期計画の期間を超えた長期的な期間における、法人としての将来像、目指す姿、目標を示す大方針とする
- このため、長期ビジョンは、北海道が中期目標を策定する際の参考としてもらうほか、本学が中期計画を策定する際の検討の土台とする
- 長期ビジョンは、中期計画により具現化されるものとする

本学の運営方針・計画の体系

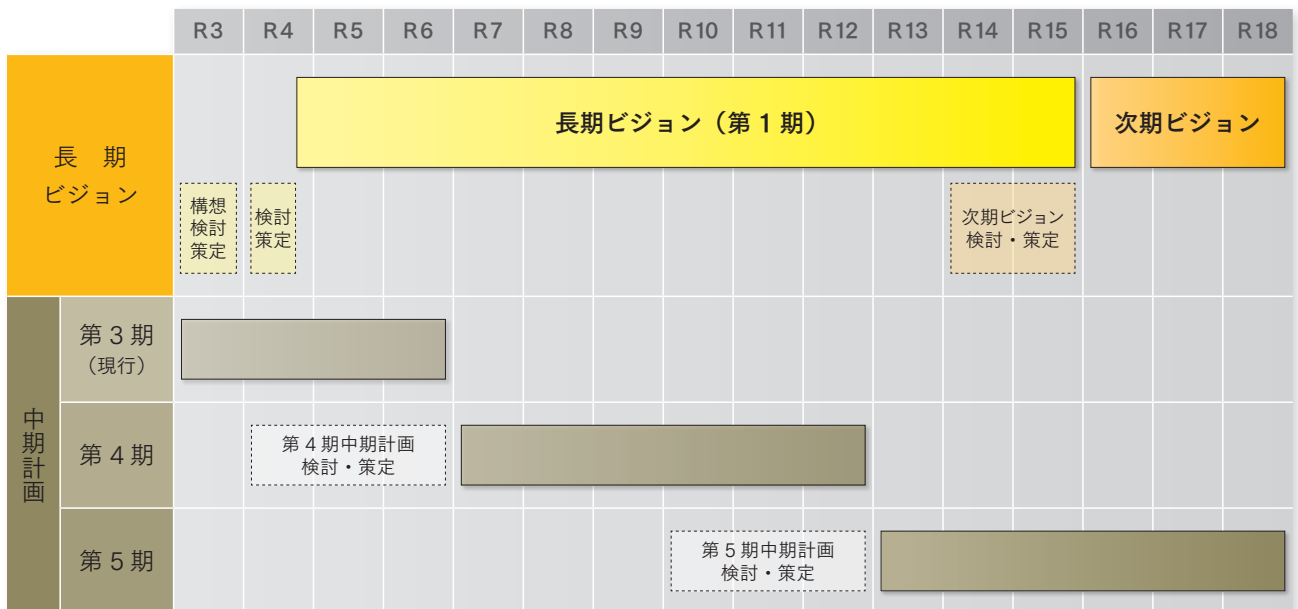




3. 長期ビジョンの期間

- 地方独立行政法人法により、中期計画（中期目標）期間が6年間であることに鑑み、2期分の中期計画（中期目標）期間として、長期ビジョンの期間を12年とする
- 長期ビジョンの期間は、令和4年度～令和15年度とする

長期ビジョンと中期計画策定に向けたローリング



※長期ビジョンは、社会環境の変化や取組状況等を踏まえ、必要に応じて適宜見直しを行う

4. 長期ビジョン

1

教育

目指す姿 ▶ **高い倫理・使命感を持ち、
人間性豊かで高度な医療人を育成します**

▶ 教育ビジョン

① 高い倫理・使命感を持った高度な医療人を育成します

- 高度医療教育を推進する組織体制の構築などによる、高い知識・技術を備えた医療人の育成
- 統合 IR 部門の充実を図るとともに、分析等を活用した入学試験方法の見直し
- 他大学との連携等による教養教育の充実
- デジタル技術の活用等、DX 推進による教育のより一層の質向上

② 地域医療に貢献する医療人を育成します

- 北海道の地域医療に対する理解を深めるための授業・実習の推進、地域医療に従事する使命感の醸成

③ グローバルな視点を持った人材を育成します

- 国際的医療・保健の発展に寄与する人材の育成を目的とした、国際交流の拡大、活性化

④ 卒前教育の質向上、卒前・卒後教育のシームレス化を推進します

- 機関別・分野別評価など第三者評価による質保証・質向上
- クリニカル・クラークシップをはじめとした、学生への指導充実、高度で専門的な能力育成及びそのための体制構築

⑤ 多職種連携教育を推進します

- 学生時から、多職種連携に取り組むよう、連携授業・実習をこれまで以上に推進し、チーム医療を支える人材を育成

⑥ 学生への支援を充実させます

- 学生へのきめ細かいケア・フォローアップの推進のため、学生の声を取り入れた、修学ケアやメンタルヘルスも含めた生活ケアを充実
- 卒後の多様な活躍を推進するため、キャリア支援を充実

⑦ 教育者の質を確保します

- 教育者の資質・教育力向上のため、FD 活動の積極的な推進

2

研究

目指す姿 ▶ **世界に貢献する先端研究分野の確立と、一層の研究力の向上を目指します**

▶ 研究ビジョン

① 国際的・先端的な研究を活性化させます

- ・ 研究推進に特化した「司令塔」組織体制の構築など一元的・戦略的研究の活性化

② 本学の特長を活かした研究を推進します

- ・ 基礎部門・臨床部門連携及び学部等間連携による、医療系総合大学の強みを活かした分野横断的な研究のさらなる推進

③ 研究資源の「選択と集中」を推進します

- ・ 現状の研究組織及び講座等の見直し

④ 社会情勢の変化に的確に対応した研究を推進します

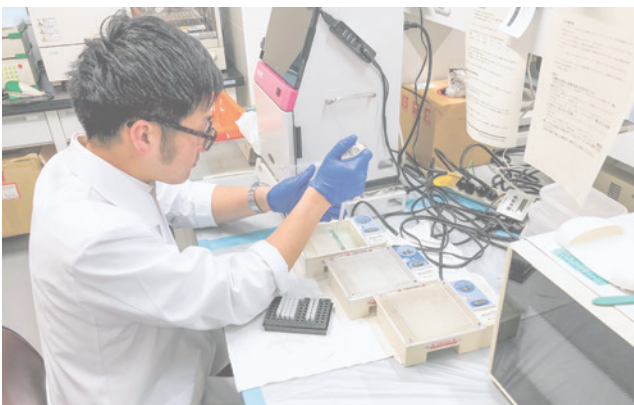
- ・ 新たな感染症の発生などに伴う、地域社会からの要請や北海道の地域特性を踏まえた研究活動の推進

⑤ 若手研究者を育成します

- ・ 若手研究者が挑戦的研究に取り組める環境の整備

⑥ 研究成果の発信力を強化します

- ・ 学内研究成果・シーズの効果的な発信



3

診療（附属病院）

目指す姿 ▶ 病院機能の一層の充実に努め、
安全で質の高い高度先進医療を提供します

▶ 診療（附属病院）ビジョン

① 病院機能のさらなる強化・充実を図ります

- ・ 感染症流行など、社会情勢の変化を踏まえた、診療科の新設や既存診療科の見直し
- ・ 診療（附属病院）業務における遠隔医療など、デジタル技術のさらなる利活用

② 特定機能病院として高度先進医療を提供・推進します

- ・ 本学の強みとなる分野の医療（診療、手術、リハビリテーション）のさらなる推進や環境整備

③ 医療連携の一層の充実を図ります

- ・ 地域の医療機関との緊密な連携、機能分化
- ・ 大規模災害や感染症発生時などに備えた、基幹災害拠点病院としての道内医療機関等との緊密な連携体制の確立

④ 臨床研修医の確保と研修内容の充実を図ります

- ・ 研修環境の改善、遠隔研修の充実などによる初期臨床研修医の確保

⑤ 持続可能な病院運営を支える経営基盤を確立します

- ・ 大学病院としての機能を維持しながら効率的経営を目指した附属病院の見直し
- ・ 最先端の医療を提供し続けるための安定した病院収益の確保



社会連携・地域連携

目指す姿 ▶ **教育・研究・診療を通じて、
地域社会との連携や還元を積極的に行い、
地域医療の維持・充実や社会の発展に貢献します**

▶ 社会連携・地域連携ビジョン

① 道内の地域医療や保健・福祉事業の維持・充実に貢献します

- 地域の医療機関等への医療従事者派遣、道や市町村の保健・福祉事業への支援
- ICTを活用したオンライン診療、オンライン研修の推進
- 道立病院等、地域基幹病院との連携強化
- 医療従事者の臨床研修（再教育）の場の提供

② 感染症を含む災害時などにおける、基幹災害拠点病院としての地域医療体制を確保します

- 新型コロナウイルスなどの感染症対応としての医療従事者派遣や検査の実施
- 大規模災害に備えた地域との連携協力体制の構築と災害発生時における医療の提供

③ 研究成果の実用化と社会還元を推進します

- 産学官連携を通じた様々な研究の社会還元



5

法人運営

目指す姿 ▶ **社会環境の変化に柔軟に対応できるよう、
持続可能な経営基盤や
効率的な業務環境を確立します**

▶ 法人運営ビジョン

① 道民の信頼を得るガバナンス体制を確立します

- ・ 情報公開の推進など、法人運営の透明性確保
- ・ 研究不正やハラスメント防止などコンプライアンスの徹底
- ・ IR等データを活用した自己点検による恒常的な業務改善

② 働きがいのある、働きやすい職場環境に改善します

- ・ 教職員の「働き方改革」の推進

③ 限りある資源（財源・人材・資産）を有効活用します

- ・ 「選択と集中」による資源配分の重点化（メリハリ付け）、法人の業務の適切な重み付けによる、法人に強みのある分野への資源の重点配分

④ ICTの利活用や集約化などによる業務の簡素化・効率化を徹底します

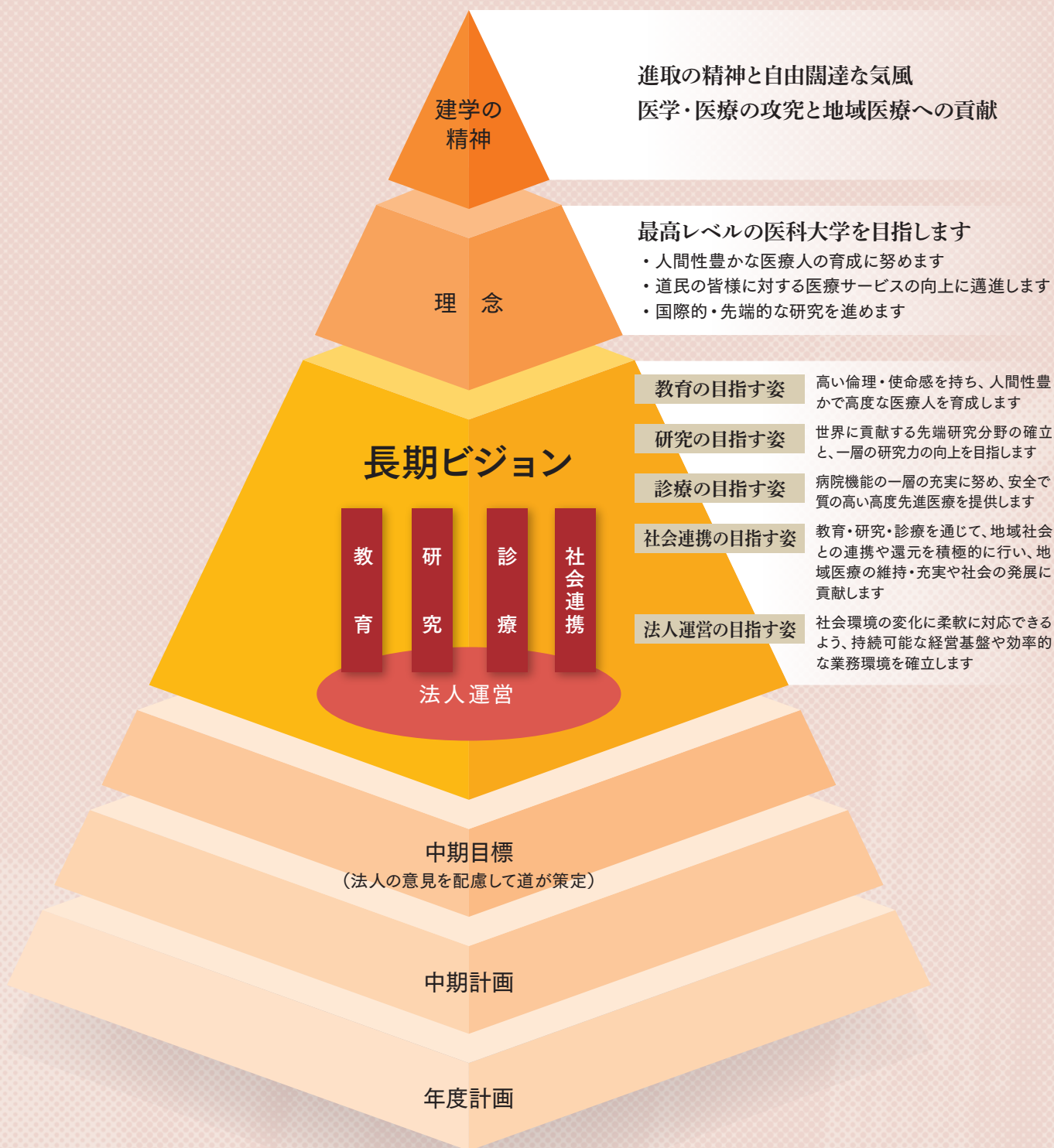
- ・ 法人全体のネットワーク基盤の強化やシステムの連携・導入
- ・ 類似業務・重複業務の集約化

⑤ 法人発展のための強固で揺るぎない財務・人材基盤を確立します

- ・ 科研費や寄附金をはじめとする外部資金の獲得による多様な財源の確保
- ・ 資産運用等の拡大による安定的な財源の確保
- ・ 安定した法人運営のための持続可能性を見据えた人材育成

⑥ 法人の魅力や強みを発信する戦略的広報を推進します

- ・ SNSの活用や外部（メディア・連携企業等）との協力による発信力の強化
- ・ 法人のイメージアップ戦略の推進



教育ビジョン

- ① 高い倫理・使命感を持った高度な医療人を育成します
- ② 地域医療に貢献する医療人を育成します
- ③ グローバルな視点を持った人材を育成します
- ④ 卒前教育の質向上、卒前・卒後教育のシームレス化を推進します
- ⑤ 多職種連携教育を推進します
- ⑥ 学生への支援を充実させます
- ⑦ 教育者の質を確保します

研究ビジョン

- ① 国際的・先端的な研究を活性化させます
- ② 本学の特長を活かした研究を推進します
- ③ 研究資源の「選択と集中」を推進します
- ④ 社会情勢の変化に的確に対応した研究を推進します
- ⑤ 若手研究者を育成します
- ⑥ 研究成果の発信力を強化します

診療（附属病院）ビジョン

- ① 病院機能のさらなる強化・充実を図ります
- ② 特定機能病院としての高度先進医療を提供・推進します
- ③ 医療連携の一層の充実を図ります
- ④ 臨床研修医の確保と研修内容の充実を図ります
- ⑤ 持続可能な病院運営を支える経営基盤を確立します

社会連携・地域連携ビジョン

- ① 道内の地域医療や保健・福祉事業の維持・充実に貢献します
- ② 感染症を含む災害時などにおける、基幹災害拠点病院としての地域医療体制を確保します
- ③ 研究成果の実用化と社会還元を推進します

法人運営ビジョン

- ① 道民の信頼を得るガバナンス体制を確立します
- ② 働きがいのある、働きやすい職場環境に改善します
- ③ 限りある資源（財源・人材・資産）を有効活用します
- ④ ICTの利活用や集約化などによる業務の簡素化・効率化を徹底します
- ⑤ 法人発展のための強固で揺るぎない財務・人材基盤を確立します
- ⑥ 法人の魅力や強みを発信する戦略的広報を推進します



<https://web.sapmed.ac.jp/>

北海道公立大学法人 札幌医科大学

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

TEL(011)611-2111(代)



●本学のシンボルマーク

「だ円」(枠組み)は宇宙の調和、「1945」は本学の創基年、「七光星」は北海道の象徴、「羽」は発展と飛躍、「柏の葉」は英知と質実、「へびと杖」は医学のシンボル、アスクレピオスの杖を、それぞれ表現しています。



 **YouTube**

<https://www.youtube.com/channel/UCE1Dz79Aw9yModBENuAw9GA>



 大学広報 Twitter

https://twitter.com/SMU_PR



 入試広報 Twitter

https://twitter.com/SMU_NYUSHI